



かけはし

<洞峰学園教育目標> 夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成
<校訓> **自ら学び** **心ゆたかに** **たくましく**

みんなで読書をする楽しさを味わいましょう（読書週間について）

子供たちの読書活動は、好きな本を読むだけにとどまらず、情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かしていく読書（インタラクティブ・リーディング）の必要性が指摘されています。小学校低学年における語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘もあり、言語能力を育てていくことは小学校において大切なことです。また、幼児期から学童期にかけての読書能力形成が、その後の社会的・職業的な自立に向けた学びに影響するという意見もあり、子供の読書活動を推進するためには、学校教育だけでなく社会全体で考えていかなければなりません。読書週間には、10月27日から11月9日までの文化の日を挟んだ2週間にわたり、読書を推進する行事が集中して行われています。



近年、スマートフォンなどの普及に伴い、情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加傾向にあります。情報に触れることは容易になる一方で、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、情報の意味の吟味や文章の構造的な内容を的確に捉えて読解する機会が少なくなっており、特に学年が進むにつれてその傾向が明らかになっているようです。

子供たちがよい図書と出会い、言葉を学び、豊かな感性を磨き表現力を高めるとともに、自分の考えを形成し相手に伝える行動を通して、豊かな人生を送ることは大切なことです。

学校では、図書室の蔵書の配列を工夫したり、教室や廊下等を活用したミニ読書コーナーを設置したりするなどして、子供たちが図書に触れやすい工夫をしています。また、読み聞かせボランティアの皆様による読み聞かせ、国語の授業を中心としたブックトーク（テーマに沿って本を紹介し合う）やアニメーション（読書への興味を引き出すメソッド）、「東小読書活動推進事業（読書賞100冊）」（全学年）、「茨城県 みんなにすすめたい一冊の本推進事業」（4～6年生）など本を読むことの楽しさを知ってもらうための取組を年間を通して行っています。近年、家庭環境の変化により、家庭で落ち着いて本を読む機会が少なくなっているとの指摘があり、特に高学年から中学校に向けては時間の確保も大きな課題です。しかし、読書する習慣形成は小学校段階では大切なことです。ご家庭でもご家族全員で、少し時間を読書に充ててみませんか。夕食や寝る前などの15分読書も効果的です。

10月の行事予定

学校ホームページ/
学校生活/行事予定



←クリック

オンライン授業期間中に学習したことは補充指導

9月2日（木）から9月24日（金）までの内、学習相談日を除く、13日間がオンライン授業となっていました。東小学校では、臨時休業中でも通常登校中のように、ほぼ時間割どおりにオンライン授業を行ってきました。その大部分の授業は、双方向による問題解決学習を行ってきました。

しかし、初めてのオンライン授業ということもあり、対面授業と比べると、理解度や習熟度に不安があります

そこで、9月27日（月）から10月1日（金）までを、オンライン授業期間中に学習したことの補充指導の期間としました。オンライン授業期間中に学んだことを振り返り、補充指導を行い、その後通常登校時に実施しているような評価テストを行う予定です。

皆さんも子供もみんな笑顔になる「学校公開」

今月は、「学校公開」があります。今回も新型コロナウイルスの感染防止の観点から、地域の方々にはご案内せず、保護者の皆様だけにご案内となります。授業をはじめ、子供たちの学校生活のすべてを公開しますので、ぜひ学校においでください。感染防止策を講じた公開の仕方や、詳しい授業内容等は後日お知らせいたしますが、ぜひご覧いただきたい点を3点お伝えいたしますので、ご参考にしてお越してください。



まず、1点目は、皆さんのお子さんの様子をご覧いただき、これまでと違う成長の証を見つけて、それを認める言葉をお子さんにかけていただきたいと思います。子供なりに、今日は授業参観ということで、ちょっぴり背伸びをし、いつもより張り切った姿を見せようと思っているに違いありません。皆さんからかけられた言葉によって、特別な日に子供たちが背伸びして発揮した力が、普段の学校生活でも見られる力になるに違いありません。

2点目は、皆さんのお子さん以外の子供たちにも目を向けていただきたいと思います。その中で、良い点や感心したことがありましたら、その子供にも皆さんの素直な気持ちを言葉にして伝えてください。きっと伝えられた子供も、そして伝えた皆さんも笑顔になると思います。

3点目は、子供たちだけでなく、授業の内容や教職員の様子、校内の掲示等の状況、施設や環境などもご覧いただきまして、ご意見をいただけたらと思います。現在は、連携の時代です。学校は、保護者の皆さんをはじめ、地域の皆さんや様々な方々と、子供たちの健やかな成長という共通目的をもって連携してこそ、優れた教育ができるものだと思っていますのでよろしく願いいたします。お気付きの点は、当日のアンケートや後日お知らせする学校評価の際でも、いつでも結構ですので学校にご意見をお届けください。

子供たちが、多くの人たちに見守られながら成長をしているということを実感するとともに、いつも子供たちを温かく見守っていただいている保護者の皆様方への感謝を、子供たちの姿からお伝えできればと思っています。

多くの皆様の参観をお待ちしています。

学校と家庭が連携しながら目の健康を守る

東小学校では、9月からの臨時休業中においてもオンライン授業を積極的に取り入れ、双方向による学習を継続してきました。GIGA 端末を活用する時間が増えていることから、本校ではカメラをオフにしながらの学習や授業の合間に目の体操を取り入れる等の取組を行いながら、オンライン授業を進めています。

4月には萩生田文科省大臣が、「子供の視力低下は以前よりその傾向が見られるものの、学校のICT化により一層悪くなることがないよう、最新の医学的知見に基づいた対応が極めて重要だと考えています。」と発言されています。

また、文科省と眼科医等の専門家や学校関係者との懇談会では、具体的に、

- ・子供達が目の健康について自ら学び、実践するリテラシーを身に付けることが重要であること
- ・GIGA 端末を正しい姿勢で使用することやルールを守って活用することなどについて、学校のみならず、家庭ともしっかり連携することが不可欠であること

などが確認されました。

文科省のホームページには、「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレットについて」、日本眼科医会のホームページには、「目の健康啓発マンガ『ギガっこデジたん!』」がそれぞれ掲載されています。それらの資料も活用しながら、学校と家庭が連携しながら子供達の目の健康を守っていきます。

